

■おもちゃ図書館ぽっぽ

【事業紹介】

たくさんのおもちゃが揃っている中で、障がい児とその兄弟が気がねなく自由にのびのび遊べる場所の提供をしています。対象は0～10歳程度の障がい児とその家族で、子ども達とお母さん達が、好きな時に好きなだけ遊んで、おしゃべりして、時を過ごせる憩いの空間です。毎月1回（第4土曜・11時～16時まで）堺市総合福祉会館3F プレイルームにて開催。

スタッフも、ほとんどが子ども連れでの参加となり、みなさんと一緒にほんわかしたムードで楽しく活動しています。ぽっぽでは、たくさんのおもちゃに囲まれ、子どもたちは思い思いに遊び、ゆったりとした空気が流れています。お母さん達はそんな子どもを見守りながら、ぽっぽで知り合った仲間たちと一緒に、子どもの成長を喜びあったり、時には悩みの相談や情報交換をしたり・・・。スタッフ達もかわいい子どもたちの笑顔に癒され、たくさんの元気をもらいながら活動を続けています。平成23年度は、平成9年に設立から、14年目の活動となりましたが、設立当初からずっと変わらない活動が続いています。

【H23 年度の活動報告】

- 開催回数：12回
- おもちゃ貸出点数：1～13点（月平均7点） 年間延べ点数：81点
- 参加者：30～66名（月平均49名） 年間延べ人数：583名
- その他の活動

機関紙よっTOYで！	編集会議・印刷	年10回（月1回）	延べ 50名
クリーニング	おもちゃの清掃	年10回	延べ 60名
運営会議	運営について	年10回	延べ 50名
総会		年 1回	14名
イエローシートキャンペーン	啓発活動	年 5回	15名
合計			189名

（ 開館日・その他の活動合わせたの延べ総数 772名 ）

== ぽっぽ担当者より ==

平成23年度は、振り返ると“母の手作り感” 満載の一年でした。設立以来毎月発行している会報誌“よっ TOY で！”の挿絵は、イラストが得意な母が毎月かわいらしく仕上げています。裁縫の得意な母は、おもちゃ貸出時の“お持ち帰り袋”に、子どもたちが好きな柄をワンポイントデザインを。クリスマスイベントは、スタッフの母たちが、手作り衣装を身につけ、練習したダンスを子どもたちに披露し、とても盛り上がりました。お母さんたちのあったかい手作り感で、気持ちも温まった一年でした。

7月には、堺市功績者賞をいただきました。運営をしてきたスタッフだけでなく、遊びに来てくれた人、応援してくれた人、ぽっぽを広めてくれた人、これまでぽっぽで「笑顔をつないで」くれた人、すべての人の功績をたたえられてのことだと思えます。これからも笑顔でいっぱいぽっぽになるように頑張っていきたいと思えます。

== ある日のぽっぽ ==

いつもはお母さんと一緒に来館してくれるKくん。最近ヘルパーさんとお出かけするようになったそうで、この日はヘルパーさんと一緒でした。持ち前の人懐っこさと明るい性格で、初めてのお友だちともすぐに仲良くなり、早速一緒に宅配のケーキ屋さんごっこが始まりました。赤い車をケーキ屋さんの宅配車に見立て、スタッフやヘルパーさんのところまで「ケーキはいかがですか？今ならタダですよ～」と魅力的な呼びかけで、お友だちと一緒にケーキを運んでくれました。

■音楽サークル ドロップス

【事業紹介】

障がい児が集団で音楽を楽しむ支援をしています。年齢や障がい状態にあわせて小さなグループを構成しています。幼児・低学年は保護者と一緒に、高学年～はひとりで or ヘルパーさんと一緒に、歌う・聴く・演奏する・踊るなど自分を自分らしく表現しつつ楽しみます。4グループが月1回、土曜日に活動しました。10月よりグループ編成を

行い、3グループに変更。【第1～第3グループを2つにする。】12月をもって活動を終了しました。その後は、児童デイサービスばんだのプログラムのひとつとして移行し、多くの利用者が、児童デイサービスを利用しながら、引き続き音楽活動を楽しんでおられます。

【H23年度の活動報告】

- 実施回数： 16回（年間延べ参加者数 145名）
- 実施場所：ソフィア堺4F ミュージックルーム
- グループ：第1グループ／幼児グループ（比較的コミュニケーションできる児童）親子参加
第2グループ／幼児～小学低学年のグループ（比較的コミュニケーションできる児童）
母と一緒に参加ですが、活動は単独で行うことが多いです。
第3グループ／小学中・高学年グループ（比較的コミュニケーションできる児童）
母と一緒に参加ですが、活動は単独で行うことが多いです。
第4グループ／小学高学年～中学生グループ（コミュニケーションの困難な児童生徒）
年齢的なことに考慮し、完全母子分離での単独参加です。
- 内容：「あいさつ」…発語のない子はビッグマック（会話補助装置）を使う・
「歌う」…絵カードから曲を選び、みんなで歌う
「踊る」…歩く・走る・飛ぶ・フラフープ・バルーン
「楽器」…太鼓・なるこを曲にあわせ、リズム打ちする
「聴く」…先生のピアノの演奏を聴く

== ドロップス担当者より ==

子どもたちは、ドロップスでの楽しみや今の気持ちをそれぞれの方法で、先生やスタッフに伝えてくれたり、年齢や成長の過程でのいろいろな姿を見せてくれます。月に1回ですが、子どもたちが、「今日はどんな風に音楽を楽しみ、どんな姿をみせてくれるのか？」スタッフもとても楽しみにしていた活動です。

== ある日のドロップス ==

★年長のSちゃん。小さな弟ちゃんと母と3人で参加してくれています。この日は、ちょうど弟くんがやっとお昼寝したところ。母と相談して、Sちゃんに一人での参加を伝えてみました。ちょっと不安げでしたが、「いいよ！」って手を振って母とお別れ。「踊る」は、先生に誘われると笑顔で取り組んでいましたが、しばらくすると寂しくなったのか、スタッフのほうをちらりちらりを視線を送る姿もありましたが、最後までしっかり参加していました。お迎えに着たお母さんにほめられて、「これくらい…」と平静を装っていましたが、ちょっぴり自慢げな顔でした。一人での参加ができたこと、ドロップスがSちゃんにとって、安心できる活動となっていたことが感じられ、スタッフ一同うれしかったです。

★フラフープを一番に取りに行きたかったIくん。お友達に先を越されて悔しくて泣いてしまいましたが、母やスタッフに「残念だったね～」と慰められ、涙をぬぐって立ち直り参加しました。

★部屋の隅に置いてあるバルーンの布を見つけて『これこれ』とやりたいことを伝えてくれたAちゃん。

★反抗期に入ったIくん・Yくんは、「イヤだ！しない…」といいながらも、参加していました。

★高学年～の単独参加グループ。最初はいすに座ってられないことも多かったけれど、だんだんと集団を意識して、みんなで座って太鼓を叩く姿が見られるようになりました。

★A君は、ホワイトボードのスケジュールを見て、スタッフよりも的確に次の活動にむかっていました。

■水曜クラブ 重度重複障がい児のための遊びクラブ ぷらっしゅ

【事業紹介】

ぷらっしゅは、ぴーす会員以外（誰でも）利用できるグループです。e-AT（電子情報支援技術）を用いて、肢体／知的の重複障がい児の余暇活動支援をしています。身体の不自由さをe-AT利用で補い、人に動かされるのではなく、自分の意志でおもちゃを動かす・音楽を聴くなど様々な活動をしています。百舌鳥支援学校・堺支援学校の学齢期の重複障害のある児童が、おおむね月に一度、水曜日の放課後に活動しています。子供の遊ぶ姿を通して、保護者は支援機器の利用やコミュニケーションの支援について学んでいます。

【H23年度の活動報告】

- 実施回数：6回（年間延べ参加者数57名）
- 実施場所：堺支援学校内同窓会館／長居障害者スポーツセンター
- アクティビティ：<<遊ぶ>> 電動シャボン玉、ドミノトラック、ぷーさんのチョウチョとり、iPadゲームアプリ
<<感覚>> 電動自動車（移動）、扇風機（風）、ディスコライト（光）
<<クッキングなど>> ジュースサー（つくる）、綿あめ機（屋台）、お茶当番（もてなす）
誕生会（ろうそくを扇風機で消し、主役を務める）など

== ぷらっしゅ担当者より ==

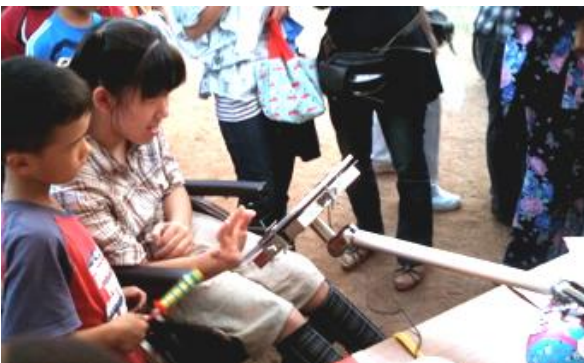


パソコンや最新の情報端末機、支援機器（外部スイッチやその関連機器など）は、専門家や一部の支援者によって、その利用や研究がなされていますが、エンドユーザーである障がいのある子どもとその家族にとって、情報や体験する機会は非常に少ないです。また、費用も相当かかることから、導入のハードルが高いのが実情です。

それは、障がいのある子どもたちが主体的に遊び、学ぶ「ひとつのチャンス」を失っているということ！そんな大人事情を打破しようと、ぷらっしゅでは、新しいおもちゃもパソコンや最新の情報端末機、支援機器もジャンジャン子どもたちに使ってもらっています。



== ある日のぷらっしゅ ==



堺支援学校でおこなわれた「福祉盆踊り」に出店者として参加。ぷらっしゅの出し物メインは「iPad（アイパッド）のゲーム：太鼓の達人」「花火打ち上げゲーム」。

ともに年齢や障害の有無を問わず、誰でも簡単にその人なりに楽しめるアクティビティです。

ところが、お祭りが始まると、遠巻きに見るばかりで、お客さんの列ができませんでした。

「むずかしそう」「あれって、最新のあれやんな～、けど～うちの子には無理やな～」というみなさんの声が。。

そこで、2歳の知り合いの男児に試しでしてもらったところ、はじめてにもかかわらず、太鼓の達人の「どらえもん」をなんなくクリア。その様子を見ていたその子の姉（身体障害がある）が次にトライ！手の甲右手小指の付け根あたりで、画面をタッチすることで、画面に反応が起こると満面の笑みが出ました。

その後は、長蛇の列ができ、整理券を配るほどの大盛況。たくさんの子供のたちに交じって、身体障害のある子ども、知的障害のある子どもが20名ほど参加。たくさんの人にiPadを通じて、最新の技術を利用した製品や支援機器は、むずかしいものではなく、直感的で簡単に操作できるから主体的に楽しめるんだということを経験してもらえるととてもよい機会になりました。

■外出グループぴっぴ

【事業紹介】

小学4年生以上の障がい児が「友人とグループで外出する」のを支援している活動です。お母さんから離れて、お友達と外出！グループは、年齢や障がい程度に合わせて構成しています。できるだけ子ども達の自主性を重視し「やれることは子ども達で」を基本としていますが、全体の管理はぴーすの支援センターが行い、計画から報告までをやっています。

【H23年度の活動報告】

それぞれ月1回、活動を行いました。(ぴっぴ1及び3～6は、子ども達の成長等に合わせ、活動終了しています)

●ぴっぴ2 軽度知的障がいの中学生チーム

実施回数 12回 (年間延べ参加数 72名)

行き先 キッサニア甲子園、王子動物園、ボウリング、
パナソニックセンター大阪など

●ぴっぴ7 軽度知的障がいの小中学生チーム

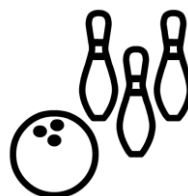
実施回数 10回 (年間延べ参加数 38名)

行き先 ハーベストの丘、カラオケ、こんぺいとうミュージアム、
アイススケートなど

●ぴっぴ8 重度知的障がいの18歳チーム

実施回数 11回 (年間延べ参加数 46名)

行き先 みさき公園、ハーベストの丘、カラオケ、さをりの森など



== ぴっぴ担当者より ==

メンバーが行きたい場所を決めるのに苦労したり、時には不機嫌になってしまったりということもあるようですが、月に一度会えるのを楽しみにしてくれているようです。自分たちでできることはやり、難しいことはヘルパーさんの力を借りながら、グループでの活動を、それぞれ楽しんでくれています。

== ある日のぴっぴ ==

★ぴっぴ2は、中学生の男子4人のグループです。

咲くやこの花館&生き生き地球館に行った時のエピソード。館内散策やシアターを見て、過ごしました。昼食にピザの食べ放題に行き、なんと、最高10枚も食べたとか(^_^) さすが中学生！ 食べ盛りです。元気で健康が何よりですね♪



★ぴっぴ7は、女の子2人のグループです。

こんぺいとうミュージアムに行った時のエピソード。こんぺいとう作りの工程をDVDで観た後、実際に作る作業をしました。終わった後は、こんぺいとうの歴史やクイズ、試食などもあり楽しみました。終了後、時間があったので、雑貨屋さんや本屋さんにも立ち寄ったそうです。

★ぴっぴ8は、18歳の女性2名のグループ。



ハーベストの丘に行った時のエピソード。手作り体験コーナーのチョイスはそれぞれで選び、その時間のみ別行動をしました。作品は上手にできあがったようで満足げにしていたそうです。

また観覧車に乗ったり、かき氷を食べて過ごしました。学校を卒業してからは、ぴっぴの活動の日だけ会えるので、とてもうれしそうにしていたそうです。

■放課後クラブ ばる

【事業紹介】

ばるは障がい児の放課後生活を支援しているグループです。

平成16年秋に始まった“放課後クラブばる”。開始当初は運営のすべてを母達で行っていましたが、平成17年度に〈堺市ファミリーサポートデイサービス事業の補助〉を受けることとなり、その後平成18年に、利用児童母達の運営から“NPO法人びーすの運営”に形態を変更。その際に、グループを1つ追加。そしてH20年度には〔堺市障害児放課後活動等支援事業〕が開始され、新たな補助に変わると同時に、もう1つグループを追加。翌年のH21年度は上神谷支援学校の開校に伴い、また1つグループを追加して、4グループに。というふうに、年を経るごとにどんどん大きくなりました

H24年度は、4つのグループで、堺市内の各支援学校・地域小学校の小学校1年生から高校3年生まで、毎週延べ約100名（実数49名）の子ども達で活動。

活動内容は、障がいに関わらず年齢らしい暮らしぶりとして、「自己決定・コミュニケーション・地域性」を大切に活動しています。やわらかな集団活動の中で、自分のやりたいことを、友達を意識しながら楽しんでいます。

また、11月より4つのグループのうち1つを廃止。2つが“児童デイサービス”へと生まれ変わり、残り1つのグループの活動となりました。

【H23年度の活動報告】

- 活動拠点 ばるの家 中区深井清水町（11月に移転し、北区百舌鳥梅町で児童デイに）
百舌鳥支援学校小学部低学年～中学部の児童・生徒が利用
- ぼんたの家 北区百舌鳥本町（11月より児童デイに）
百舌鳥支援学校小～中学部、堺支援学校高等部、地域の小学校の児童生徒が利用
- ぶらすの家 北区中百舌鳥町（10月末で廃止）
泉北支援学校高等部・地域の小学校の児童・生徒が利用
- べりえの家 南区原山台（年度終了まで継続）
上神谷支援学校小～中学部・泉北支援学校の児童・生徒が利用

●活動人数

小1＝2名 小2＝4名 小3＝名 小4＝4名 小5＝8名 小6＝5名

中1＝7名 中2＝4名 中3＝2名 高1＝2名 高2＝4名 高3＝5名 計49名

●活動内容

学校が終わると、子ども達は友人・スタッフとともに、徒歩あるいは南海バス・電車を使っての集団下校をします。活動する家についたら、全員が「今日すること（スケジュール）」を決め、その日の活動がはじまります。

「いつおやつを食べるか?」「いつ、どこに買い物に行くか?」などは子ども達が自分で決めています（自己決定の練習です）。家でゲームやビデオを楽しむ子、近所のお店で買い物する子、公園へ遊びに行く子。買い物等で利用するお店の人に「上手に買い物できるようになったなあ」とほめられることもあります。活動の中では、ワークシステムを使った自立課題に取り組んだり、高学年からいろんなお仕事もしています。雑巾がけ、洗濯物干し、ゴミ集めなど、時には、自分たちが飲み終えたペットボトルをつぶしてリサイクル回収箱へ持って行ったりもします。年末には、大掃除をしたり、年に一度は避難訓練をしたりと、さまざまな経験をしながら「その子らしい自立」を目標に活動しています。また、夏・冬・春の長期休暇には、お出かけや室内での製作物など、有意義な時間をすごせるように取り組みました。例えば、お昼ごはんタイムには、カレーライス作り・ピザ作り・流しそうめん・うどん作り、餃子作り。おやつタイムには、クッキー作り、アイスクリーム作り、どら焼き作り、たこ焼き作り。製作では、エコバッグ作り、年賀状やグリーティングカード製作、クリスマスリース作り、書き初め。お出かけでは、プラネタリウム、天王寺動物園、プール、大仙公園へのお出かけ、なんばパークス・津久野ヨーカドー・アリオヘショッピング、カラオケ、初詣、お花見、作業所見学 などなど・・・

そのグループにあった活動をスタッフみんな考えて、取り組んでいます。

== ある日のぼる =====

低学年グループのAくん。紙を破るのがマイブームで、ぼるの家にあるみんなで読む絵本や、机の上に置いてあるお手紙などを見つけては破りたくなくなってしまいます。

ある日、スタッフは「破ってもOKな紙」をたくさん用意して、思う存分紙破りを体験～。嬉しそうなAくんは、「もっともっと～」と、スタッフの手を引っ張り、上手に「紙ちょうだい」と、要求できるようになりました。クリスマスが近かったので、スタッフは、そんなAくんが得意な紙破りで、たくさん雪を作って、ぼるの家に雪を降らせる計画をしました。冬休み活動のある日、白い紙をたくさんちぎってくれるAくんを見て、Bくんも紙ちぎりに挑戦。傍らではスタッフがパラパラと上から紙を落とすのをとてもよく見ているCくん。みんながそれぞれの参加の仕方、冬休みの活動の一日がホワイトクリスマスとなりました。終わったあとは、みんなで片付け。ちっちゃい紙を根気よく拾うAくんの几帳面な一面を発見することが出来ました。たくさんの雪を片付けるのは大変でしたが、ガンバってくれたBくんは、最後に「またしようね」と言ってくれました。

== ぼる保護者の感想 =====

★百舌鳥支援学校・中学部1年生男子の保護者

家以外での居場所づくり、親以外の人との関係を構築することが大きな目標でしたが、スタッフの寄り添った支援のおかげで、少しずつぼんたの中で自分の居場所を見つけ、マイペースではあるけれど安心して過ごすことができているように思います。また、ぼんたでのおやつがきっかけに、ココナッツサブレやチョコレート・ハイチュウ、など 食べれるものが増えて子どもらしい?!姿に喜ぶ母でした。

これからは、自分から楽しいことを見つけたり、得意なことが見つけれたらいいなと思いますし今後活動にも幅が広がること願っています。

★堺支援学校・高等部3年生の女子の保護者

高校3年生の娘。最後の利用の年でした。お友だちとやり取りしながら、一緒にDVDを見たり・お友達を気遣ったり・クッキングを楽しんだり・お仕事をしたり…と、有意義な時間を過ごさせていただきました。そこで経験したたくさんのことは、これからの娘の新しい生活の中で、活かしてくれると思います。母としても学校以外の集団活動の場があったこと、本当にうれしく思っています。

■児童デイサービス ぱんだ・ぼんた

【事業紹介】

11月より、放課後活動から移行し、大阪府の指定事業として運営を開始しました。ぱんだ・ぼんたの二か所で開始。児童デイサービスの開始に合わせ、幼児クラス、土曜クラスの活動もスタート。土曜クラスでは、ぴーすの余暇活動の「どろっぴす」をそのまま取り入れた音楽活動を、活動プランに組み入れました。

自立支援法の障害福祉サービスとしてスタートしましたが、翌年は法改正に伴って、児童福祉法の児童発達支援の枠組みに入ります。

【H23年度の活動報告】

●活動拠点

児童デイサービスぱんだ 北区百舌鳥梅町
百舌鳥支援学校小～中学部、地域の小学校の児童・生徒が利用

児童デイサービスぼんた 北区百舌鳥本町
百舌鳥支援学校小～中学部、堺支援学校高等部の児童・生徒が利用

●活動人数

ぱんだ：小1～中3 11月～3月利用者数610人 ぼんた：小5～高3 11月～3月利用者数601人

●活動の目的とその内容

単なる「預かり」ではなく、個々に応じた「発達支援」をしています。

一人一人の障害特性や、持っている力（苦手なことできないことも含め）をしっかりと捉え、その力を「より伸

ばす方法」や、「できる工夫」など、将来の『その子らしい自立』を目標に、日々の支援をしています。

自ら成長する力で楽しく暮らすことを目指し、支援者は大人の目線ではなく、子どもに寄り添って年齢らしい暮らしができる環境を作るお手伝いをしています。

例えば・・・友だちとコミュニケーションがうまく出来ない子には、その子に応じたやりとりの方法や環境を整え、「おしゃべりしたい意欲」を育てる支援。家庭ではなかなかできない経験として、小さな集団の中で、「順番を守るなどルールを覚え、楽しく遊ぶ」場面作り。身辺自立がなかなか定着しない子には、発達段階を考慮し、福祉用具や支援グッズを利用しながら「自分でできる」練習。運動が苦手な子、あるいは多動で運動量が不足がちな子には、身体を使った遊び、大人と楽しむうちに汗をかく遊びなど、それぞれの子どもの合った「運動プログラム」をプラン。などなど一人ひとりの子どもの、「こうなりたい」という心の声に耳を傾けて、個別支援計画を立て、それを基に家庭と連携しながら、放課後や休日の活動をしています。

== 活動の様子紹介 ==

幼児のクラスは、少人数での活動です。

最初は、スタッフもその子の得意なこと、苦手なことが分からず、苦労していました。子どもの方も初めて通う場所、初めて会う人に戸惑い気味で、何をするのもちょっぴり自信なさそうに取り組んでいました。

子どもたちも打ち解けてきたある日、トイレットペーパーの芯を使って電車を作り、ひもを通して動かす遊びました。すごく上手に出来たのでいつもの様にかばんに入れてお持ち帰りをしたAちゃん。次の活動の時にはなんと、「家でも同じの(芯)を集めていっぱい作ったよ～」と得意そうに見せてくれました。その日は、Aちゃんがたくさん作って来てくれた車両を繋げて、なが～い車両の電車ごっこが出来ました。

Aちゃんは根気よく何かを作ることが得意だと発見できたスタッフは、その後は折り紙を使った切り絵や、貼り絵、カンタンな裁縫などと発展させ、数か月たった頃には、Aちゃんの自信いっぱいの表情が伺えるようになりました。製作の場面だけでなく、手遊び歌の時の声もすごく大きくなり、自分からあいさつもできるようになっていました。

== 児童デイ・スタッフの感想 ==

Aスタッフ

子ども達とのコミュニケーションの取り方が一人一人違うのでいつもどんな返答をしてくれるのかワクワクしていました。なかなか理解出来ずにお互い困ってしまったこともあります。思いが伝われば子ども達の表情はとても穏やかで、そんな姿を見て私もまた穏やかな気持ちになりました。これからも子ども達と色々なやりとりが出来るようにコミュニケーション力を磨いて子ども達に信頼されるスタッフになれるように日々関わっていきたいと思います。

Bスタッフ

日頃は穏やかでマイペースの〇〇さんが、ある時急に玄関の方へ走って行き外に出ようとしたことがありました。その時に、いつも先輩のスタッフさんがしているように絵カードをいくつか持って行き、「何をしたいの？」と問いかけた時に「じどうはんばいき」と伝えてくれた時の喜びは忘れられません。前の自分なら「外に行ったらあかん」とまず止めようとしたと思いますが、〇〇さんの気持ちに少し寄り添うことが出来た瞬間で自分自身とても勉強になりました。

Cスタッフ

土曜クラスの〇〇くんは、音楽が大好きでとても意欲的です。個別のレッスンでは個室から外に声が漏れるほど大きな声で受け答えしたり、歌を歌ったりして。以前から〇〇くんのことには知っているけれど、そんな姿を見たのは初めてだったので、とてもびっくりしました。以前から知っている姿は、やることなく退屈な時には周りの子にちょっかいを掛けたりしてトラブルになる場面が多かったのですが、〇〇くんにとって大好きな音楽が活動の中にあることが、こんなに生き生きとできるんだなあ、と見ていて嬉しくなりました。それと、先生に褒められて照れくさそうにする〇〇くんの表情はサイコーに素敵です。

■障がいを支援するモノの販売

【事業紹介】

昨今、障がいに関する書籍は様々な物が出版され、その数は増えるばかりです。大型書店での取り扱いも増えてきました。しかし、自宅で購入できる便利さから「購入はネットで・・・」という人が多い一方、「ネットだと、中身を見てから購入できない」不便さも感じています。さらに、種類が多い上によく似たタイトルばかりが並び中で「自分にぴったりの一冊」を選ぶのも難しくなっています。またグッズに関しても、最近では障がいを支援するグッズ・ツールを利用する方が増えてきましたが、それらを販売している所はまだまだ乏しく、これもネットで購入することになります。その物が「頻繁に繰り返し使用する」のなら「購入だけ」でいいのですが、新しく使う・一度チャレンジする場合は、品物が手にとれないととても困ります。また購入した物の使い方がよくわからない、使ってみるとあまりよくない場合も、相談する先に困るのが現状です。そこでぴーすでは、そんな使用者（お子さんと保護者）のニーズに応えるため、商品を事務所や講演会場に並べて、手にとって選んでいただけるように『障がい児・者のための嬉しい暮らしを支援するモノ』の展示販売をしています。

【H23年度の活動報告】

●新たに登場した商品：《災害時要援護者マーク付消しゴムはんこ》



10月、ぴーすオリジナル商品として『災害時要援護者マーク付き消しゴムはんこ』が発売されました。

受注販売となっており、お子さんのお名前・緊急連絡先を刻印します。また、布用スタンプパッドもお付けしていますのでカバンやハンカチなどはもちろんのこと下着や洋服にスタンプしていただけます。お子さまを見失ったり、迷子になったり・・・と「もしも」の時に、何も持っていなくても下着や洋服などにスタンプしていれば保護された際に連絡が付きやすく、とても便利です。障がいを持った子どもたちだけでなく、高齢者の方にもご利用いただけるものとなっております。 販売価格:¥2500（布用スタンプパッド付）

●購入数が多かったモノ 《防災ワッペン・防災手帳》

防災手帳・ワッペン



東日本大震災直後から問合せや購入申込が殺到しましたが、H23年度は防災講演会依頼も増え展示販売により「防災ワッペン・防災手帳」をたくさんの方にご購入いただきました。また、支援学校様単位や作業所様単位でのご注文も増え、被災地である福島県の支援学校様にもご購入いただきました。

ぴーすがH17年度より『障害児のための防災を考えるプロジェクト』として、障害児家族当事者の視点で考える防災を提言し、障がい児・者の防災についての啓発活動に継続的に取り組んでいます。その1つが防災手帳・ワッペンの推進です。手帳には、名前や緊急連絡先、家族の集合場所や最寄りの避難先などの他、援護が必要な理由（障がい名など）、コミュニケーションのとり方、障がいや病気の特徴やかかりつけの病院など書き込めるようになっています。ワッペンは、裏ポケットに名前・連絡先・要援護の理由を書き込む用紙を入れるようになっています。

●講演会で人気だったモノ 《大震災 自閉っこ家族のサバイバル（書籍）》



2月に開催された「防災フォーラム」。東日本大震災から間もなく1年経とうとしていたこの時期の防災講演会とあって保護者の方はもちろん、支援者の方々も多数参加されていました。そして、この講演会でたくさんの方にご購入いただいたのが「大震災 自閉っこ家族のサバイバル」3月11日のあの日、ライフラインが全て止まった中で自閉っこ家族がどうやってサバイバルしたのか？避難生活のリアルな体験記です。防災フォーラムでは、完売してしまった人気書籍です。

●平成23年度 売り上げ件数

・支援グッズ1,554件 ・書籍 264件 合計 1,818件

■情報提供事業

【事業紹介】

障がい児やその家族の暮らしに役立つ情報を、メール(パソコンや携帯)などを利用して提供しています。具体的には、以下の3つの方法で行っています。

1：メールニュース『ふぁにい』

月曜～金曜までの毎日、携帯やパソコンへのメールニュースを配信。生活に密着した情報をタイムリーに届けられる「欲しい情報が欲しい時に手に入る」ニュースです。

●平成23年度総配信数： 373 件 (期間H23年4月～H24年3月 月平均配信数 29件)

カテゴリー	記事内容(抜粋)	合計
福祉行政制度	・知的障害児の日常生活用具について ・障害者の権利に関する条約	8
民間の社会資源	・大阪ハートフル商店街 ・クロスジョブ阿倍野開設 ・ぜんちの保険	18
お得情報/障害割引情報	・各種手当を受給されている方のお得な定額貯金 ・コンサート無料招待	16
余暇お出かけ先施設情報	・大阪府営5公園プール情報 ・アンパンマンミュージアム	17
余暇エンタメ情報	・アウトサイダーミュージシャンの音楽会 ・東日本大震災チャリティー	23
余暇文化活動	・牧場暮らしとホースセラピー ・ファインブラザスポーツ教室	24
余暇イベント	・堺福祉祭り ・せんぼくトレインフェスタ ・バリアフリー寄席	47
セミナー/講演会/学習会	・みんなの防災フォーラム ・発達障害当事者による講演会	75
書籍/番組/モノ等の紹介	・自閉症のある人のための防災ハンドブック ・無印の時計付箋紙	35
ぴーすからのお知らせ	・防災ワークショップ ・小さなセミナー ・連続勉強会	110
合計		373

== ふぁにい担当者より ==

23年度は、防災に関するセミナー、ホームページ、TV 番組、書籍など東日本大震災に関連する情報が数多く寄せられました。発信元は、関係機関や団体からだけではなく、ぴーすの利用会員様より寄せられたものもありました。

情報の受け手としてだけでなく、ぴーすの利用会員様自身の「知っている」「知りたい」「聞いたことがある」「伝えたい」などの『想い』がふぁにいニュースになったと感じた一年でした。

2：ぴーすのブログ <http://sakai-comcom.net/p-s/>



2009年1月7日 開設ぴーすの各事業の開催情報や活動報告、スタッフの様子などをリアルタイムに発信しています。

本年度もドロップスやおもちゃ図書館など余暇活動を精力的に行っているグループの活動の様子を画像とともに紹介いたしました。

== ある日のブログ記事より ==

●防災バスツアー



11月11日(金)懇親会をかねて、防災研修に行ってきました。

場所は、神戸市「人と防災未来センター」

みっちり研修・・・の前に、まずは腹ごしらえ。お腹もいっぱい、おしゃべりもいっぱい(^_^)

いざ、研修！！館内は撮影禁止で、残念ながら写真はないのですが・・・阪神淡路大震災当

日を映像と音・光で体感する施設あり、震災時の街並みを再現したゾーンあり、展示物あり・・。

決して忘れていたわけではないけれど、「あの日」の記憶が蘇り、なんともいえない気持ちと防災ワークショップの重要性をあらためて思いました。最後は、参加者みんなで記念撮影。ご参加いただいた皆さま、お疲れ様でした。

●3月のぽっぽ開催の様子



新しく登場したグラグラゲーム。とってもおいしそうなおーナツとケーキです。どんな風にして遊ぶかは、子どもたち次第です。グラグラゲームをするのか、はたまたおままごとにするのか、どんな遊び方をするか...とっても楽しみです。

男子2人で冷蔵庫に食材をせっせと詰め込んでおりました。何入ってるの？見せて〜と声かけすると、いいよ〜と中を見せてくれたのですが...母たちが普段使用している冷蔵庫に比べ、なんとスッキリ！整理整頓されているのでしょうか〜ただ押し込むだけの我が家の冷蔵庫。彼らを見習って整理整頓しなきゃなあと反省した...スタッフでした。

●ぴーす理事長:本日の業務

今日は 松原市手をつなぐ親の会が主催する講演会。テーマは 障害者(児)と親・家族の防災について 参加者は 通所成人の方達の保護者でした。人生の先輩方に対し お話するなんて とても緊張するのですが 優しいムードで、何度もうなずいて、熱心に聞いてくださって... なんだかとても素敵な時間をもてました。心あったかあくなりました。近いので これからもいろいろ交流したいです。よろしくお祈りします。

●待望のプロジェクト

みなさん、お元気ですか〜♪今年も猛暑になるとの予想ですね。暑がりの息子との暮らしでは、クーラーが一日中フル回転の我が家ですf(^^; さて、先日、ぴーすに「新しいプロジェクト」がやってきました。これは、赤い羽根共同募金様より、助成いただいたものです。今までは、講演会などのたびに、レンタルしていたのですが、じつのところ、設定に現場であたふたすることも。。。これからは、前日にデモ投影することもできるので、安心です。このプロジェクトが小さなセミナーや講演会などで、皆さんにお伝えしたい資料を、きれいに投影してくれ、大活躍してくれることでしょう〜♪

3 : ぴーすのホームページ <http://p-s-sakai.net/>



23年度は、新しいコーナー「ぴーすのイベントカレンダー」を始めました。ぴーす主催のセミナーや講演会、余暇活動の開催日の掲載をはじめ、ぴーすスタッフが招聘された講演会情報なども掲載いたしました。時系列で、多くのイベントが整理されることから、「わかりやすい」「外出先でも予定が確認できて便利」と好評をいただきました。

== ホームページ担当者より ==

リニューアルより数年たちましたが、イベントごとの更新のみで、全体的な見直しができているが、課題です。24年度は、デザイン変更も含め全体的な見直しと、ソーシャルネットワークとの連携も視野に入れた新しいホームページをスタートできればと思います。

■ 幼児知的・発達障がい児の母親対象『連続勉強会』

【事業紹介】

我が子の障がいに気づいて間がない幼児期のお母さん達を対象に、少し先輩の小学生の母親が講師役をつとめ、体験談・失敗談を交えつつ、共感・励ましを伝え、生活の工夫・親の心構えを紹介することにより、少しでも早く我が子への愛情・子育ての楽しさ・将来への明るい希望を取り戻してもらうことを目的に実施している勉強会です。

【H23年度の活動報告】

1	5月24日(火) 福祉会館第2会議室 25名参加	こんな子育てやってます！～がんばらなくていいんだよ～ ・講師2名の自己紹介も兼ね、幼児期のことなど体験談をお話しました。ビデオで今の子供の様子を紹介。
2	7月6日(水) 福祉会館第2会議室 35名参加	進路について～就園・就学～ ・わが子の進路について、通園施設・保育所・幼稚園などの情報提供と就園体験談のお話と支援学校と地域の小学校の様子を紹介しながら、進路を決める際の心構えなどをお話しました。
3	9月27日(火) 福祉会館第2会議室 22名参加	体験してみよう！～ワークショップ～ ・ぴーす小田多佳子理事長によるワークショップを開催。子どもたちの世界を実際に体験しました。
4	10月25日(火) 福祉会館第2会議室 20名参加	みんなどうしてる？身近自立～トイレ・着替え・食事 etc～ ・講師もいっぱい失敗してきました。そんな体験談をお話させていただき、頑張りすぎない生活のコツをお伝えしました。
5	11月25日(金) 福祉会館第3会議室 16名参加	ことばとコミュニケーション ・こどもの「ことば」について悩んだ時期お話させていただきました。コミュニケーションとはなんだろう？を学びました。
6	12月6日(火) 福祉会館第2会議室 24名参加	うちの子の将来って？～堺市の福祉制度について～ ・ぴーす支援センター相談員の松本尚子さんをお迎えして、お子さんのこれまでの子育てのお話を交えながら、福祉制度の観点からもお話させていただきました。
7	1月11日(水) 福祉会館第3会議室 17名参加	参加者さんからの実践報告～こんなことをやってみました～ ・2名の受講者の子どもへの具体的支援を、ぴーす支援センターと協力して実施。受講者の方から、今回の支援で感じたことを報告してもらいました。スタッフが実際に家庭で使っている支援グッズを展示。
8	2月8日(水) 福祉会館第2会議室 22名参加	障がい児のいる家族～きょうだい・父・祖父母の想い～ ・特別講師として連勉スタッフ2名。障がい児のきょうだい、父、祖父母などの関わり方・障がい受容の事について。

== 連続勉強会担当者より ==



H23年度も多くの方に参加いただきました。
「話を聞いて安心した」「子どものことが少し理解できた気がする」などの感想をいただき、身近な体験談をお話することで共感していただける部分が多くあったのではないかと思います。スタッフも参加者の感想に励まされ、元気をもらいました。

★第1回 「こんな子育てやっています！～がんばらなくていいんだよ～」

- ・去年からびーすの存在は知っていましたが、自分の中で参加するその一歩が踏み出せずのままでした。今年初めて参加してお話を聞かせていただき、気持ちが少し楽になったところがあります。自分の子どもよりも、数年年上の子どもさんの子育てをしているお母さんの姿がすごくたくましく見えました。

★第2回 「進路について～就園・就学～」

- ・今、通園施設に通っていますが、私が仕事をしているので、このまま通わせるか？保育園に入れようか？悩んでいました。が、私目線ではなく子ども目線で考えていきたいと思いました。これからはずっと悩んで悩んでいろんなことを乗り越えていかなければいけないといけません、自分だけでないと思えてよかったです。



★第3回 「体験してみよう！～ワークショップ～」

- ・着替えが遅い、とついついせかしてしまったり私がやってしまったりしていました。もっと『待つ』ことを大切にしたいと思いました。色々な体験を実際にやってみて、子どもがどんな気持ちでいるのか、少しわかった気がします。

★第4回 「みんなどうしてる？身辺自立～トイレ・着替え・食事 etc～」

- ・朝の身支度など時間に余裕がなく、ついつい私が着替えさせがちなのですが、自分でできることは自分でできるように見守ってあげたいと思います。



★第5回 「ことばとコミュニケーション」

- ・家ではカードを用意しましたが全くうまくいかず・・・「トイレ・手を洗う」など、私の都合のよいカードばかりで、本人の喜ぶものがなかったです。まず、好きなものから始めたいと思います。

★第6回 「うちの子の将来って？～堺市の福祉制度について～」

- ・子どもの進路・将来について不安いっぱいでしたが、松本さんのお話を聞いて悲観するばかりではなく、子どもの可能性を信じて毎日、過ごしていきたいと思えるようになりました。福祉サービスについてもよくわかりました。ただ、そういうサービスに頼るだけでなく、子どもが小さい頃に一緒に過ごす時間を大切にしたい、という言葉が心に残りました。

★第7回 「参加者さんからの実践報告～こんなことをやってみました～」

- ・できない事も工夫次第で乗り切れるんだと思いました。母親って近すぎて、ついつい決めつけたり、できないと思いつくとあるところがあるので気を付けたいです。

★第8回 「障がい児のいる家族～きょうだい・父・祖父母の想い～」

- ・みなさんのお話を聞いて心に染みしました。様々な家族の形が合って、様々なきょうだいがいて、いろんな形があっというんだなあ・・・と改めて思いました。

■小さなセミナー

【事業紹介】

専門家の先生がお話する「大きな講演会」ではなく、もっと身近なテーマで暮らしに‘即・つながる’勉強などをするため、びーすでは少人数のセミナーを頻繁に開催しています。少人数であることで参加者さんたちの間で和気あいあいと話しやすいムードを作りだし、好評です。また、時間をかけて様々な支援グッズなどを丁寧に作り上げる「製作会」もあり、びーすの事業の中でも人気の活動となっています。

【H23年度の活動報告】

●実施回数：24回（年間参加総数 111名）

●実施内容：製作会「支援グッズ」	1名	「ソーシャルストーリー」	1名
「サポートブック作成会」	3名	「子ども紹介プリント」	3名
「コミュニケーションカード」	2名		
研修「放課後に使える制度」	1名	「福祉制度について」	3名
「テスト・宿題対策」	3名	「住まいの構造化」	7名
「アスペルガー」	5名	「問題行動には訳がある」	5名
「ヘルパーさんを上手に使おう」	5名		
座談会「軽度障害児の学習について」	3名	「新学期座談会」	3名
「こだわり・困った行動」	6名	「進学・進路について」	9名
「障がい児が使うもの」	9名	「障がい児のしつけ」	5名
「シングルマザー」	5名	「学校・先生とのつきあいかた」	3名
「きょうだい座談会」	6名	「障がい児の性教育について」	10名
「ライフプラン」	10名	「病院・歯医者・散髪」	3名

== 小さなセミナー 参加者の感想より抜粋 ==

★「サポートブック作成会」に参加のお母さん

以前からサポートブックに興味があったのですが、あまり必要性を感じていなかったので作成したことがありませんでした。小学校へ入り、その必要性をひしひしと感じました。自分のつたない子どもの紹介も、スタッフの方にかかると、あっという間にステキな子ども紹介へ変化していくのには、目からウロコ・・・そして涙が出そうに感激しました。新学期への不安も減る気持ちです。

★「子ども紹介プリント」に参加のお母さん

自分の子どものこといえ、他人に説明するとなるとなかなか難しいので、すっきりまとめて頂いてよかったです。就学相談でも言いたいことをまとめていった方がもれがなくていいとおもうので、さっそく活用したいと思います。

★「住まいの構造化」に参加のお母さん

毎日毎日イーッとなり、おこってばかりしていたのですが、考え方を180度変えて、今日帰りにボックス買って今日やつけてしまおうと思いました。それぐらいすぐできることを教えていただきました。

★「アスペルガー」に参加のお母さん

いろいろと共感できるお話を聞くことができ、耳が大きくなりました。

★「進学・進路について」に参加のお母さん

全く情報がまだ無い段階であったので、聞くことすべて貴重な話で本当に興味深かったです。日頃の子どもとの関わり方など、講演や本などで学べますが、地元の進学情報はやはり身近な方、経験者からお聞きするのが一番ですね。本当に勉強になりました。

★「シングルマザー」に参加のお母さん

色々話が聞けて良かったです。でももっと早くから知っていたら違っていただろうと思うことがたくさんありました。でもその体験も勉強になったと思うので、これからは活かして行けたらと思っています。

■ぴーす主催の講演会など

【事業紹介】

ぴーすは、よく大きめの講演会やイベントを制作するのですが、その内容は固定化しておらず、その年・その時の保護者ニーズに合わせ、柔軟に「こんなのがあれば、きっとみんな喜ぶね」を大事に企画しています。平成23年度は、3月11日に起きた東日本大震災を受けて、主に防災をテーマに、以下の講演会等を実施しました。またH23年度は堺市市民活動支援基金・地域福祉活動助成金が決定したので、これらの講演会等にも有効利用させていただきました。

【H23年度の活動報告】

1.ぴーすの防災勉強会 『東日本大震災を受けて～いざという時、助かるために・生き抜くために～』

- 実施日時：6月1日（金）10：45～12：30
- 実施場所：堺市総合福祉会館 第2会議室
- 講師：ぴーす理事長 小田多佳子
堺市社会福祉協議会 所 正文氏
- 参加者：44名
- 実施内容：3月11日の東日本大震災を受けて、防災について今一度学びたい！という声を受けて開催しました。今回の勉強会は2部構成で、1部は小田の「障がい児の防災」についての心得をお話ししたあと、第2部として堺市社会福祉協議会の所 正文さまより、阪神大震災以降の堺市や行政の防災についてわかりやすく説明していただいた後、被災後の避難生活に不可欠な「共助」について、インタビュー形式で教えていただきました。

== 参加者の感想 =====

- ・色々なことを考えさせられました。なんとなく漠然と考えていた防災。3月の地震から、不安を覚え、自分でできることはしていましたが…。まだまだ考えるコト、するべきコトがあるとわかりました。
- ・うちの地域は隣組、会館掃除や地蔵盆、校区運動会など…今まではとてもめんどろに感じていましたが、地域とのつながりを大切にしていこうと思いました。
- ・地域とのつながりをどうやっていったらいいのか、たくさんヒントをもらえました。勇気を出して、できることからやっていこうと思いました。

2. 『軽度発達障がい児ワークショップ』

- 実施日時：8月26日（金）13：30～14：40
- 実施場所：堺市総合福祉会館 プレイルーム
- ゲスト：NPO法人えんばわめんと堺
- 参加者：25名
- 実施内容：長期休み恒例となりつつある、ワークショップ。今回のテーマは「自分の気持ち、からだって大切。みんな、ひとりひとりが大切」。まずは床に敷き詰めたシートにそれぞれ自分の身体をペンでかたどることから開始。その後一人ひとり前にでて自己紹介&自分の好きなものみんなに発表。イラストを使った「イヤなことをされたら、どんな気持ち？」では「怒る」より「とまどう」の表情に「それぞれ」と答える子どもたちにスタッフは少しびっくりしました。ラストはこのワークショップ恒例の新聞びりびり。みんな張り切って破って…。ワークショップが終わってもまだまだ余韻が残る参加者さんたちでした。

== 参加者の感想 =====

(子どもさんの感想)

- ボール遊び楽しい。めっちゃすごい。またやりたい。
- 楽しかったです。今日はしんぶん遊びました。

(保護者さんの感想)

• 毎年楽しみにして参加させていただいています。自分の力が発揮できて、子どもにとって居心地の良い空間、時間なのか…と。クラスではなかなか発表できず、発言できていないんだと思います。失敗を恐れず、「まちがってもいいんだよ！」という自信につながってほしいです。

3. 『みんなの防災フォーラム～堺市の防災と障害児家族について、考えよう～』

(平成 23 年度堺市市民活動支援基金助成対象事業)

- 実施日時：2月10日(金) 10:00~12:00
- 実施場所：国際障害者交流センター(ビッグ・アイ) 第1研修室
- 講師：堺市危機管理室 主査 田中幸治氏
堺市障害者支援課 参事 矢嵐健次氏
堺市手をつなぐ育成会 会長・ぴーす理事長 小田多佳子
- 参加者：79名
- 実施内容：堺市手をつなぐ育成会との共催で行われました。2部編成で行われ、第1部は、「堺市の防災について知ろう」というテーマで、理事長：小田からは、障がい児の防災についてを話を、ぴーすスタッフから神戸市手をつなぐ育成会主催防災講演会に参加した時に学んだこと(東日本大震災の被災者の体験談など)をお話しました。続いて、ゲスト講師である堺市危機管理室の田中氏より、堺市の防災の現状と、要援護者支援ガイドラインについて、堺市障害支援課の矢嵐氏より、要援護者とはについてお話いただきました。その後、第2部は、会場の参加者さんとのディスカッションでした。会場には、神戸市にある「人と防災未来センター」と堺市危機管理室より、東日本大震災の状況や防災についてのパネルをお借りして、展示しました。

== 参加者の感想 =====

- 今日はありがとうございました。実際の体験談などを聞き、リアルに怖い思いになり、でも知ることが大事なんだと痛感しました。市の防災の現状も知ることができ、また、いろいろとすすんでいってもらえればいいなとも思いました。まずは自分自身できることを一つずつ増やしていけたらとおもいます。
- 堺市でも防災のシステム作りなどをされていることを聞いて少し安心しました。自助もまだまだできていないですが、となり近所にも我が家の事を知らせること、障害のある子どものために親の会に入会して障害のことをわかる人を増やしたいと思いました。
- 日頃からの準備が本当に大切だと改めて思いました。事業所・学校・行政などのネットワークも作っていつでも連携をとれるようにしておくべきだと感じました。そう考えるとまだまだ弱いと思います。もしものために知識を蓄えていくことが必要ですね。

4. 『NPO法人ぴーすPresents：防災ワークショップ』

(平成 23 年度堺市市民活動支援基金助成対象事業)

(ワークショッププログラム開発：平成 23 年度地域活動福祉助成)

●実施日時：2月28日(火) 10:00~13:00

●実施場所：堺市総合福祉会館 第2会議室

●ファシリテーター：ぴーす理事長 小田多佳子

●参加者：10名

●実施内容：平成 17 年度から行っている、ぴーすの「障がい児・者の防災を考えるプロジェクト」。その中の取り組みのひとつである、防災勉強会。今まで「講演会」スタイルでしたが、ひとりひとりの家庭環境にあった防災をもっと気軽に、少人数で開催できるよう、プログラムを開発しました。そのプログラムのお披露目をかねたワークショップを2月28日(火)に開催しました。インフルエンザが猛威を振っている中での開催のため、キャンセルなども多かったのですが、10名のみなさんにご参加いただきました。

各グループ4~5人ずつに分かれてもらい、防災の基本的知識を学んだあとは、被災直後から避難生活後までを時系列に並べ、それぞれの時期のなかでの参加者それぞれの家族の行動や困るであろうことについて、一人ひとりが思いを出し合い、発表。それをグループ内で話しあい、解決できたこと・できなかったことを報告していきました。ひとりひとりが各々の家族のことを考え、発表し、またアイデアなどを出しあうことで、また新たな発見が生まれる…そんなワークショップになりました。

== 参加者の感想 =====

- ・勉強会で話を聞くだけより、今回のようなみんなで話し合うことで、「あ~そんなこともあるんや」と気づくことがいっぱいありました。シュミレーションを何回もやっていくことが大事だと思いました。
- ・今回のワークショップで、いろいろ分かり、自分のためにもなり、子どもたちのためにもなりました。いつ地震が来ても少し気持ちに余裕を持てると思います。
- ・講演と違ってゆっくり交流っぽくお話ができたので、とてもよかったです。

5. 『春のバスツアー~大型バスに乗って“淡路夢舞台”へ行こう!~』

●実施日時：3月30日(金) 10:00集合~17:00解散

●行き先：淡路夢舞台

●参加者：84名

●実施内容：「春休みお楽しみ企画」として開催しました。大型観光バスを借り、中百舌鳥発着コースと三国ヶ丘・堺経由コースの2台で淡路島にある「淡路夢舞台」へ行ってきました。当日は風が強かったですが、とてもいい天気でした。現地では自由行動。大型遊具で遊んだり、白鳥ボートに乗ったり、植物園に行ったり・・・それぞれのペースで楽しまれていました。

== 参加者の感想 =====

- ・大・大満足の1日でした！子どもたちも汗いっぱいかいて、いい笑顔でした。母も広〜〜い敷地で、たくさんいい景色をみて、いい風を感じて、Refresh！！心が洗われました。また。明日から頑張るゾ！！
- ・すごく楽しかったです。なかなかお友だち同士で遠出することができないので、皆で参加できる場所があるのを知って一緒に参加できてすごくよかったです。ありがとうございました。
- ・実に有意義なツアーでした。普段遊ばない遊具や乗り物に乗って刺激になったと思います。初めて参加してみたいですが、すごく楽しかったと言っていたのでまた次の機会も参加できればと思います。今日はありがとうございました。

■ぴーすの支援センター

【事業紹介】

23年度は堺市の委託事業として、障害者・児の暮らしについて、さまざまな内容の相談や支援事業をおこなっていました。悩みの解決に向け状況を把握し、支援計画、またその見直しをする「暮らしのマネジメント」、一人ひとりに合った活動場所・グループ作り・サークル活動作りなどの「社会資源の開発」、障害者・児を支援する人・場所・モノ・機関をつなぐネットワーク作りを行いました。

【H23年度の活動報告】

●年間相談実人数 490名（昨年 230名） ●年間相談延べ件数 1812件（昨年2131件）

●障害種別

視覚	聴覚	肢体	内部	知的	精神	発達	その他	重身
1	1	26	0	1219	103	324	138	0

●相談内容

福祉サービスの利用援助（居宅介護支給量の計画や使い方など） 269件

健康・医療・保健（医療機関の紹介など）	13件
家族関係・人間関係に関する相談	2件
日常生活の相談（障害理解・不安や情緒の安定・生活技術の向上）	231件
家計・経済の相談（障害基礎年金や生活保護・金銭管理）	36件
保育・教育の相談（進路・不登校・放課後活動など）	148件
就労の相談	10件
社会参加の相談（社会参加・余暇活動について）	34件
その他（各関係機関との連携など）	495件
ケアプランの作成	6件
障害児母親のピアカウンセリング	11件
サービス利用計画の作成	248件

＝＝ 担当者より 一年をふりかえって・相談の傾向として ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

今年度は発達障がい児の教育に関する相談の増加が顕著であり、特に小学校高学年から中学生の年齢層の保護者からの相談が多くありました。支援センターと教育機関との連携については今後も大きな課題であると痛感した年でした。又その一方で、次年度からの相談支援体制が大きく変わること、当センターの役割も変化を余儀なくされ、後半はその準備に追われる日々でありました。委託事業から指定事業への変更となる中、これまで当センターをご利用の皆さんには、ご理解、ご協力をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。次年度からは、新たにぴーすの支援プランセンターとして、ぴーすらしさを失わない相談支援を行っていきたいと思っています。

■ぴーすのヘルパーステーション

【事業紹介】

大阪府指定の居宅介護・移動支援と、堺市の育児支援のヘルパー派遣をしています。
主に、児童の移動支援ヘルパーの派遣しています。

【H23年度の活動報告】

H23 3月末現在 契約利用者数 68名 登録ヘルパー数 21名

== Pステ♪担当者より =====

児童の利用の特徴は、一カ月の利用回数・時間数が少ないこと、依頼が土日に集中することでなどで、運営の難しい事業となっています。その反面、ぴーすへの「契約希望の児童」は毎年増える一方。

平成23年度は、期待にできるだけ応えるよう「安定した派遣」に苦慮しつつ活動をした一年でした。

今後は「児童にとって必要なヘルパーとは?」「児童と成人の違いは?」など、ぴーすならではの検討も行き、新たな展開を模索する予定です

■職員・ぴあぴあ研修

ぴーすでは、様々な立場で、多数の人たちが、ぴーすの一員として「仕事」や「活動」をしています。
その人達の「スキルアップ研修」として、H23年度は以下のような研修を実施しました。

1. 職員・ぴーすの登録型サポーターチームぴあぴあ研修

【事業内容】

研修を受けていただいたうえで、お仕事としてぴーすの活動に参加していただきます。

【研修内容】

- ・11月11日(金)「防災研修～人と防災未来センターバスツアー～」 24名
- ・11月22日(火)「障害受容とICF」 6名
- ・11月28日(月)「子育て・子育て支援」 14名
- ・12月 8日(木)「支援グッズの基礎知識」 12名
- ・12月12日(月)「守秘義務・個人情報の取り扱い及び報告の仕方について」 11名
- ・1月30日(火)「傾聴・共感・連携の考え方」 30名
- ・2月 2日(木)「ファシリテーション基礎」 34名
- ・2月 6日(月)「ファシリテーション実技」 21名
- ・2月10日(金)「防災フォーラム」 15名
- ・2月15日(水)「パソコン基礎」 13名
- ・2月24日(金)「カウンセラー基礎」 19名
- ・3月 6日(火)「防災研修～人と防災未来センターバスツアー～」 9名

==職員・ぴあぴあ研修 参加者の感想=====

★「防災研修～人と防災未来センターバスツアー～」

- ・16年前のことで記憶が薄れていることもたくさんありましたが、映像や展示物を観て当時のことを思い出すとともに改めて防災への取り組みの重要性を感じました。

★「障害受容とICF」

- ・子どもの障がい、目の前のありのままの姿を受け止める障がい受容は、何度も訪れるということを知らないから不安であるということ。気持ちのゆとりなどによって変わる心の状況などを考えつつ、支援者として寄り添っていくことが大切だと改めて感じました。

★「子育て・子育て支援」

- ・とても難しい内容でしたが、とても興味深く、そして多くを考えさせられた研修でした。「子育て」「子育て」を一緒に考えがちだったと気付きましたし、歴史ともに変わっていく「子育て」「子育て」はとても分かりやすかったです。

★「支援グッズの基礎知識」

- ・自分で知らないうちに使っていたり、逆に全然知らずに「使いたい」と思う支援グッズもありました。「自分が楽に」と思い、また子どもが「楽に」と思って使っていますが、そのやり方でいいのだろうか・・・と思うこともありましたが、
「子ども達のやりたい気持ち、嫌な事を避ける・助ける」ことでいいんだと分かり、さらに私も使っていきやすくなりそうです。

★「守秘義務・個人情報の取り扱い及び報告の仕方について」

- ・「個人情報・守秘義務」と聞いた時点で難しい内容だと思っていたのですが、まさしく難しかったです。それと同時に、お話のなかでもありましたが怖くなりました。一つ一つ言葉を選んで頭で考えながら話していかなければならないと思うとちょっと不安・・・でも支援する側として、何を守らなければならないか、どう注意すべきか、具体的に教えていただいたので、少しイメージはつかむことができました。

★「傾聴・共感・連携の考え方」

- ・人と話をしていると、ついつい自分の意見を言いたくなりますが、ゆっくり話を聞くということ、上手な質問、言いすぎないこと、とても大切なのだと分かりました。自分の話を人に伝える難しさも実感しました。

★「ファシリテーション基礎」

- ・2回目ですので、内容がつかみやすく集中できました。情報は大切だとつくづく感じました。聞くスキル、書くスキルをもっとあげていきたいと思います。

★「ファシリテーション実技」

- ・ホワイトボードに書くことで、参加していない会議の内容も一目で分かることが新鮮でした。どんな細かいことも書きだす、誰の意見にも左右されない・・・大事なことだと思いました。

★「防災フォーラム」

- ・実際の体験談などを聞き、リアルに怖い思いになりました。でも、知ることが大事なんだと痛感しました。市の防災ほ現状も知ることができ、またいろいろと進んでもらえればいなあ、とも思いました。まずは、自分でできる事を一つずつ増やしていけたらと思います。

★「パソコン基礎」

- ・園で役員をやり始めてパソコンを使う機会が増えましたが、分からない事が多くて行き詰ったり、できないところは他の方に任せたりしていました。今日の説明は分かりやすく、質問にも答えていただき、さっそく今日試してみたいと思います。

★「カウンセラー基礎」

- ・毎日の子育てに生かせるように思い出しながらやっていきたいです。今まで「相談」する側だったので、「その通り」と思うこともありましたが。相手のことを見て、聞いて納得してもらえるようにやってみたいと思います。

★「防災研修～人と防災未来センターバスツアー」

- ・実際に震災にあわれた方の語り部のお話を聞くことができ大変よかったです。映像だけで観るのと話を聞くとは全く違って、その時の様子、恐怖感がすごく伝わってきました。時間がたつと薄れていく記憶。今日は改めて勉強になりました。

2.ヘルパー・放課後活動スタッフ研修

5/31	Pステ研修「知的障害や自閉症の人・子と良い関係を築くために～構造化を学ぶ」
5/19	ガイドヘルパー現任者研修会 受講者：
6/27	Pステ研修「ばる活動について」
9/22,29,30 11/18,12/12	平成23年度 大阪府行動援護従事者要請研修 受講者：
11/7 ,10,15	サービス管理責任者研修 受講者：
11/24	「福祉・介護サービス従事者に求められる法令遵守」研修 受講者：
11/22	堺市障害児ホームヘルパー事業者研修 受講者：
12/12	Pステ研修 ケース会議ワークショップ
12/6	Pステ研修 ケース会議ワークショップ
1/24	大阪府委託民間事業者 社会福祉研修 受講者：

■ぴーすが参加した会議など

堺障害フォーラム（SDF）運営委員会
大阪手をつなぐ育成会 月1回の理事会、支部連絡会、幼児学歴部会 大阪大会
堺市社会福祉事業団 評議委員会
堺市手をつなぐ育成会 役員会、部会
中区まちづくり会議 防災分科会、子育て分科会、ミニフォーラム
相談支援新法人事業運営調整会議準備会
さかい障がい児連絡会（児童デイサービス事業所）
堺市発達障害者支援専門部会
特定非営利活動法人堺市相談支援ネット 理事会
第2次堺市地域福祉計画～堺市社協地域福祉総合推進計画会議、懇話会
堺市障害児放課後活動等支援事業実施団体交流会

■ぴーすから講師・発表者を派遣したもの

5/11	府立堺東高等学校 「社会福祉基礎コース受講者向け」講師：小田
6/8	東大阪市手をつなぐ親の会 総会 講師：小田
6/10	大阪手をつなぐ育成会守口支部主催 障害児と家族の防災を考える講演会 講師：小田
6/28	三重県立 西日野にじ学園 PTA 講演会 講師：小田
6/30	あゆみの会主催 防災講演会 講師：小田
6/24	池田市手をつなぐ親の会主催「障害児の防災と避難支援について」講演会 講師：小田
8/19	阪南市知的障がい者（児）団体連絡会 「障害児の防災について」講演会 講師：小田
7/9	子どもの人権と虐待～今、なにができるか それぞれの立場で語ろう立場を越えて考えよう 子どもの人権と虐待を考える市民の会 主催 シンポジスト：小田

8/22	守口市障害者理解促進・ボランティア養成事業主催出前講座 講師：小田
8/12	平成 23 年度 東区自立支援協議会防災勉強会 講師：小田
9/5,22,30	さくらの会主催学習会「防災について」 講師：小田、辻、山本、三原、川端、若山
8/22	堺市立百舌鳥支援学校研修会 「児童が使える福祉制度」 講師：松本
8/30	第 32 回 堺市人権教育推進協議会 全体研修会
9/6,8,9	めだか親子教室保護者学習会 講師：三原、山本す、山本ひ、辻、岩本、田桑、森野、更井、服部、山本す
9/11	和歌山県自閉症協会主催 「障がい児のための防災を考える」講演会 講師：小田
9/21	北区民生委員のあつまり
10/1	堺市難病支援ネットワーク 2011 なんねっと祭シンポジウム シンポジスト：小田
10/14	障害児保育推進担当者研修 講師：小田、更井、辻
10/17	堺市保育課 研修会 「障害を持つ子どもの保護者支援」講師：小田
10/18	大阪手をつなぐ育成会 支部連プラス「新しい障害児支援のしくみ」 講師：小田
11/8	府立堺東高等学校 「社会福祉基礎コース受講者向け」講師：小田
11/16	大阪府立 泉北高等支援学校 防災講演会 講師：小田
11/24	和歌山県立 きのかわ支援学校 P T A主催防災セミナー 講師：小田
11/29	みっくすどろっぷす主催「障がい児・者のための防災」講演会 講師：小田
12/13	中区民生児童委員会 「一人ひとりのノーマライゼーション」講師：小田
12/17	柏原市障害者自立支援協議会主催 みんなの防災講座 講師：小田
1/7	和歌山県 上富田町講演会 「発達障がい児・者の人権と災害」講師：小田
1/22	静岡大教育学部附属特別支援学校 防災講演会 講師：小田
1/24	佐野支援学校 「障がい児の防災について学ぼう」防災講演会 講師：小田
1/24	南子どもリハビリセンター 「これまでの子育てを振り返って」 講師：梶山
1/29	松原市手をつなぐ親の会 「障害者（児）と親・家族の防災について」講師：小田
1/31	徳島県肢体不自由児協会「大規模災害に備えて」東部ブロック研修会 講師：小田
2/26	多可町手をつなぐ育成会 研修会 「障害者のための防災を考える」講師：小田
3/7	中区自立支援協議会 「支援者向け 防災ワークショップ」 講師：小田
3/11	ありんこの会主催 「障害児の防災を考える」防災講演会 講師：小田
3/14	和泉市手をつなぐ育成会主催 「障害者の防災について」講演会 講師：小田
3/17	鳥羽社協主催 「地域における協働防災のススメ」講演会 講師：小田

■ぴーすを紹介等されたメディア

8	全日本手をつなぐ育成会機関誌 手をつなぐ」9月号原稿執筆：小田
9/23	NHK 日テレ「きらっといきる」出演：小田
9/4	NHKラジオ「ともにいきる」電話インタビュー依頼
11	堺市市民活動コーナー情報誌掲載

■その他

4/20~22	堺障害者団体連絡会 2011年度 国会懇談会
6/23	百舌鳥支援学校と送迎援助業者との懇談会
7/12	大阪市移動支援事業者に対する集団指導の開催
7/26	第123回 堺市役所開庁記念式典 表彰参加：小田、松田 辻
9/13	えのきはいむ保護者会主催イベント 外注派遣：ポポル伊佐
10/25	障害福祉サービス員等の請求事務説明会
10/26	市民活動センター 市民活動☆カフェ (防災テーマの集まりに参加)
10/29	沼津市育成会懇親会
1/14	体験型ダンスショー inビッグアイ・アクティビティ

■ぴーす総会・理事会

- ・第8回総会 5/25
- ・理事会 計 32回開催

4/7.14.21.28	10/5.20
5/9.18.26	11/11
6/3.9.22	12/14.22
7/1.8.15.27	1/5.25
8/9.19	2/8.13.15.22.29
9/2.8.28	3/13